

## 初めての普及指導員生活

相模湾試験場 田村怜子

この4月から第4区（藤沢市から二宮町）の普及指導員として相模湾試験場に配属となりました田村です。

入庁してから2回目の異動です。これまで所属した水産課、水産技術センター企画資源部ではデスクワークの仕事がメインでした。今回担当になった普及指導員は浜回りや調査など、外回りがメインですから、仕事の行動パターンが全く異なりました。それを早速感じたのは4月早々の漁船での船上調査でした。船上調査は学生時代に経験していて、船上での作業はそれ以来5年ぶりです。若干の船酔いも含め、なんとも言えない懐かしい感覚に包まれながら、充実した気持ちで調査のお手伝いをしました。暑いのがめっぽう苦手なので、これからの季節は体調管理が大変になりますが、外の空気を吸いながら、いろいろな作業ができることを楽しみにしています。

ところで、普及指導員は担当区の漁協役職員や漁業者をはじめ、いろいろな方々とお話ししながら仕事を進めるため、自動車での移動が基本となります。一方で、私の運転スキルはというと、自家用車を持っていなかったこともあり、10年以上のペーパードライバーで、運転にはかなりの不安がありました。しかも、担当の第4区は西湘バイパスを使用しなければならず、一般道どころかいきなり的高速道路デビューを余儀なくされたわけで、それはもうドキドキでした。「右折なんてできなくても、右折したい道を通り過ぎて3回左折すれば目的地に辿り着けるんじゃ！」などと、自分の運転スキルの弱さを独自の理論でカバーしている場合ではなくなったのです。それで、4月中は、教習指導員として職員の誰かに同乗してもらい、運転の基礎的な指導を受けながら浜回りに行くことにしました。最初のうちは、試験場から出て行くときには他の職員から心配そうに見送られ、漁協に着いてからも事情を知った皆さんから応援の目で見られていました。おかげで今では無事に担当区内を回れるようになりました。

新生活の出だしがこんな感じの新米普及指導員ですが、これからはみなさんの力を借りながら、少しずつではありますが役に立てる仕事をしていきたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお願ひします。

## 陸奥の横浜で思ったこと

企画資源部 加藤健太

この4月から14年ぶりに当センターへ配属となりました加藤です。

14年の間、平塚の事務所に2年、県庁水産課に12年おり、漁船登録、漁業の許認可、漁業調整、後継者対策、魚食普及、燃油高騰対策、食品衛生、水産施設整備、各種計画立案、補助金事務などの業務を行ってきました。こうやって書きだしますといろんなことをやってきたなあと思いますが、それだけ水産行政は幅広いものだと改めて感じます。

さて、私はプライベートで全国各地を旅行しますが、このゴールデンウィークに大学生の時以来20年ぶりに青森県へ行きました。空港からレンタカーを借りて、陸奥湾沿いに下北半島を北上し、しばらくすると案内標識に横浜という文字が現れ始めました。

私は神奈川県横浜市出身ですが、青森県横浜町について、これまで「下北にも横浜がある」くらいの意識しかありませんでした。空港でもらったガイドマップを見ると横浜町は菜の花畑が有名とのことで、菜の花スポットを通ってみました。残念ながら時期が早く、一面黄色い菜の花というわけにはいきませんでした。（例年5月中頃に菜の花フェスティバルが開催されています。）

下北半島には大湊線が通っており、駅に立ち寄ると「陸奥横浜駅」という駅名標が見えました。神奈川県の横浜駅に比べるとだいぶ小さな駅で、名物の菜の花畑をデザインした駅舎でした。観光案内看板にも、当然菜の花が大きく載っていましたが、あわせて「横浜のなまこ」と「横浜のほたて」がPRされていました。

ここでふと思ったことは、どちらも神奈川県横浜市でも生産されているということです。ナマコは横浜市漁協の本牧支所で主に小型底びき網漁業で漁獲されていますし、ホタテガイは柴支所で青森県産の幼貝を導入して養殖が行われています。

ナマコもホタテガイも青森県は全国的にトップレベルの産地ですが、神奈川県横浜市でも生産規模がだいぶ小さいとはいえ、漁業収入の一部となっているのです。

駅舎と観光案内看板を見て、二つの「横浜」の共通点とコントラストを感じて、横浜町を後にしました。



陸奥横浜駅外観



駅名標



観光案内看板



看板左下の拡大



陸奥湾沿いのほたて観音（ホタテガイの上に乗っている）